

浜松文芸館だより

No.85

い ざ な い

公益財団法人 浜松市文化振興財団

発 行 浜松文芸館(文責:伊熊)

令和7年 1月(夏)

夏から秋、文芸館では新展示になりました。

特別収蔵展

【1957～2024年

ひゃくせん
浜松百撰の遺したもの】

令和7年7月1日(火)～10月13日(月・祝日)

9:00～17:00 クリエイト浜松5階

* 入場料無料

表紙も内容も多様な百撰

1957(昭和32)年から2024(令和6)年まで、66年4か月にわたり発行され続けた月刊タウン情報誌「浜松百撰」。地域に密着し続けた796冊を振り返り、印象的な記事や当時の様子がうかがえる情報を紹介します。会場には、著名人の寄稿文や記事をパネルや写真で展示するほか、表紙の原画や編集室に寄せられた書簡、自筆原稿、そして「浜松百撰」の実物(一部)などが並んでいます。



展示室

★ちょっと昔の浜松《浜松の変遷》

百撰には、浜松の変貌を写真で紹介する企画が多数掲載されています。なつかしい景色を今と比べながらご覧ください。

★えっこんな人も百撰編集室と交流..

創刊当初から、芥川賞候補に複数回ノミネートされて注目されていた藤枝静男の連載エッセイや武者小路実篤の寄稿文が登場した百撰でした。作家の吉田知子、たかはたけいこ、那須田淳らの連載エッセイ作品も拡大して掲示。半藤一利、小百合葉子らの直筆書簡や原稿も展示して

います。テレビや映画に登場するスターたちも編集室へ立ち寄るなど交流していました。百撰の特集記事を拡大して紹介。また、映画情報も満載の百撰から、映画監督の木下恵介の特集、俳優鶴田浩二、佐久間良子、高倉健の出演した映画の中田島ロケの写真記事などを紹介しています。

★表紙の個性はいろいろ～796冊全部の表紙を縮小して紹介

創刊から最終号まで、様々な表紙が登場。担当した多くのクリエイターたちの思いが伝わってきます。今回は2023年の表紙を担当した若い作家HIKARUさんに協力していただき、原画や担当した思いを紹介しました。

大量の情報からの一端ではありますが、会場いっぱい百撰ワールドを演出しました。ぜひ、お立ち寄りください。



表紙の紹介